

2021/7/2

オマケの英語教室

考える英語シリーズ

サンドイッチマン (sandwich-man) 書庫版



♪おいらは陽気なサンドイッチマン♪という歌がありました。大昔の事です。

最近ではお笑いコンビのサンドイッチマンが有名です。

そもそもサンドイッチマンというのは日本語で言う処の「チンドン屋さん」の事です。

我が国では鉦や太鼓を叩いて街行く人々の気をひきつけ宣伝をするバンドチームが叩くその鉦や太鼓の音に名前の由来があります

又、英語の sandwich につきましては、パンに野菜や肉等の具材を挟んで食するものを sandwich と言っておりますが、この名の由来は自分の記憶では、英国の Sandwich 公、候、伯、子、男のいずれかの爵、即ち公爵か侯爵か伯爵か子爵か男爵のうちのどれかのその方が、大のトランプゲーム好きで、昼夜を分かたずトランプに興じていたのですが、ある時トランプをするのに食事の時間さえ勿体ないと思いだし、ついにはパンに食材を挟んだもの脇においてそれを摘みながらゲームをするようになったのですが、この逸話からその主である Sir Sandwich さんの名前を取ってサンドイッチと言われるようになったとか。

しかし何故チンドン屋さんに食材を挟んだパンの名前を冠するのか？

それでまたググらないで、まずは自分なりに色々と考えてみました。

前回同様今回も直ぐには思いつかなかったのですが、今日は子供の頃よく目にしたチンドン屋さんの絵姿を思い浮かべてみました。

確か先頭が菅笠をかぶり胸前にセットしたチンドン鉦太鼓を叩いていた女の人。しんがり最後が、これ又確かチラシを周りの人にお道化ながら配っていたピエロ姿のおじさん。じゃあ真ん中はどうだったっけ？と思いついてみると、これ又〳曖昧ながら貫頭衣の様に頭を貫いて前後、胸前と背面背中に広告看板を「振り分けぶら下げ」してクラリネットを吹き鳴らしていたおじさんだったような。

で、その時

「あっ、そういう事か!!」

と思い当たりました。

つまり、その振り分けぶら下げした胸前と背面背中 of 看板に胴体が挟まれている姿がサンドイッチに見えるからだろう、きっと。

言ってみれば「板挟み」の「ジレンマ」状態。

絵画的に言うと「前門の虎、後門の狼」状態。

日ごろの生活の中で似たような状況が起こった場合、ひょっとするとこのサンドイッチという言葉は「面白い表現」として使えるかもしれない。

と、ふと思いつきました。

それで試しに

I`m always sandwiched between customer`s wallet and staff`s wallet.

In front of me tiger, behind of me wolf. Bowwow!! I never can move. Wakatta?

これなら fall into dilemma(ジレンマに陥る)より面白い。第一うちのスタッフはジレンマなんていう言葉を知れないかもしれないし。

で、

(自分はいつもお客様の懐具合とお前たちの懐具合の間で板挟み状態だ。前門には虎、後門には狼がいて身動きがとれんぞ。わかった?)

と言ったら…

通じました。アハハッと笑っていますから。

Sandwich はこういった状況で動詞化または形容詞化(動詞の受け身化)して使えそうです。